紀曲譜 上

へ13
4287
1

宮城県図書館蔵書

礼拝論 上

普天の下に生れ辛き乃川といひつゝ色去る國
と栖とし生まれあり。五城を月ざゝむさいとに情き
事ふかりしに、九重の塩竈ものぞきて九重の宮にのぼる
乃志いと世川ありぬ。比も五月の末たゝごゝろ
ゆりめ。徳へ実。むしは実ゝとあり。山賊海賊
こゝろて往来ふまゝなゝ。今の御代よりてハ。
万民一同に心をかなれ。つゝみ屋ゝ記ん

上

日謙藏書

代代ごとに心をしりつゝ此光輝の御代我親延
喜の帝代も是はまことに人をしれば別といふす
とゝぬ事多かりと云へる今又此やうにおりひ
あつまれり上一人聖なれば下万民その德よ和して
ゆゝしくさかゝり寺社をあがめそれまつりごとのつゝしみ
ゆさうなり此政を上に有頂天下にふるゝ十方三千
大千世界ふをあまねく通じ神仏陀の感應を
さそなへしとおもひ奉るまことに未万代までも
めでたかるべしゆる程ふ様ひれつゝひもなく
おのよりあつまりさぬ先内裏へまいりふしおがみそれ

より法中と一見するにんことも及ばず法外
ふ出ごろのさうがくとゝんめづらしき月未つゝ下旋
歳とふ和よ諸事ぬ事四すて安をよびしゆへ
ありしたいてよ参りたるやとおりひ給人と打つまの逆
まいりふしおがみこゝかるゝことかん拍するに安
よるまゝ満されるありさ海どもとなりぬぐに幕うち四
うふもあり舞もあり此りそれおそびの神たとへて
いとんこれかゝよさこせんの者ども石あり立
よりて心をづくしにさけだのむ世ひぬめりうふたち者
あゝおりしるやとぷうこれのぞきて幕れひまより

れいぞうこうき上臈あまくれてまいぼこと
たぐへてのこりの天人乃あまこぐり給ひてはは
ぐさみうとうこがるる御るあるよ年は十七八ばかり歟
上臈さくせんとおもひ給ふ
なりしうこひ給ふ法華かるまう給へんぐも見まはいそ
ぬるべうこひのふ其小方未生いあがいやみま
よあれ因果ふ波安よてくちやだでとうこひちさめ
給へむそだる上臈れおあ世らるはたいまれこうこ
ぞかりそめのたそふまこしいひうぐいぱるる人の俗り
給ふやうんぞう雖さそしへなりぱらくうさ世と楽まる

よ乃ふ雲もふ風おりよやうにおうざれだ泡とはく柔
生心者のこそまもとなりそれひ見りつけてもたぐひさ
ぱくに日数と差りひ年。あさまりき次第なり。
古ものよも。世の中ハ市れかり夜の一さそ見雖も神
ぬ又ぐれ乃宅とあり。嗚呼泡とあるれく。光あ
雖者れそのこりぱれうハのぐ俗ぐきやうやうれ中を安
よつけても我も人も神ぐりきぞ浦世ぞりかぐくハ
いくぐおがめきれうんやとのくまへで。方へ乃上臈の
ぞふぞそこは求来といふそとぱいづくとたがりめー
ぱや地獄とときにあるぞ極楽他出よ何しず貝の迦。

素ハ花秋ハ月ヒトツトシテアラザルコトナシ。モシソノマヽニ解会スルコトヲ極楽トヤ申ナリ。オヽヌシヨ心カウケ給ヒテトヽシラバ。ソノ方ハ三世ヲキワメタ。ウツクシキ人ヲ。ヨロヅノ物ヲ。ヨロヅノ人ヲ。習ヒヌルカヽンナリ。ヨロヅノ人ヲ。山河大地人畜草木。ヲトシテ。ヒトツモ。ヒヤウ。ヒヤウ。ヒヤウ

とゞかされけまバ　答曰ひ不霧形あり。へうれすと
ちつ〳〵めされんすは先理と氣とやくすとおがそん
ある人〳〵月毫と理よりハ大小ゑるの下ハ善惡差別さす
あり。然まとも一理天より下て差法と成時質ものけ
やうにより て ふく〳〵とさとり川ゑり。大学の序ニ云天
降生民則既莫不與之以仁義禮智之性矣然其氣
質之稟或不能齊と云り。たとへ一つの池の水東西
南北よりあつれ出てハ大小と成。淺深もあり。又ハ色ちり
あるゝ中へなりれ入まゝかりと成。物のやうにおと
えれ人〳〵とゞたゞ一水なり。ムロ〳〵やきそれ黑とあゞく

中〳〵ぬ〳〵ゆゞく〳〵川ハ大小とゞ一ゝとゝ入れて成る
時ゞちかそり〳〵ぶゆ〳〵よ水とゝにゝりあるやうに
人〳〵ゝその内れあるゝ〳〵一のあり。かれとく理
あり。と人〳〵ゝ質ものあり。やうにより て ふくあるりの方
なり。来れ所ハ。ゝ善悪の差別あるゝなり
とゞ。ゝれゝれ　問曰理ゝ天ふ。ゝりて地ハ。ゝき
ものゝ。ゝ氣ハ地ふ。ゝて天ハ。ゝなきものゝ。ゝてゝ
答曰理天地差法ゝ。ゝ。ゝ。ゝ氣と。ゝ同ゝ。
理ゝ天ハ。ゝとゝ。ゝ。ゝ。

理と氣とは一物なり。理は清く
義法よそれ濁る。氣は自然にして。清濁もあり。
濁るもこれなりて。義法乃ち是と云ふ。春夏秋冬
と云ふ。氣乃ち是天地ひらけさかへあ
も。元はけてより人来も理のかくるゝなり。
氣質はけやうにより。大小高下。善惡差別ある
ものなりとゝ。佛不審のあるまゝ。問
ひ給へば　向曰。理と氣と一體なゝで。分て二つ
なりて。理は一水なゝ。氣は濁ゝ。
はゞ大極動して。天地義和ゝ。時は本来一物ゝ

わゝ。はゞ大極より万物をなすゝ。
はゞ。儒道ゝ。理一氣。陰陽五行。木火
土金水と。はゞ。一理の流なり。一理動
氣と名づけ。ゝ。時は理と氣なり。
木火土金水。五行。
氣。一理なり。ゝ。一理動
といひ。陽氣夏。ゝ。陽きはまりて陰と成
陰のゝ。ゝ。陰陰はまりて陽と成
陰陽陰陽則一氣。一
氣と二つあるやうに。

の下へなりて善悪差別大かるる下賢愚貧猛法
色法相応こと〳〵く負荷とそかりて手を神へ応て
万事方みて一るれど一さて方ゞ母なり方へ一ゞ子ばく
あ〳〵どや極るとこの法ふけて理の第法より流るけも
とも氣質れうけやう〳〵ゞ〳〵だうりあひ法ふいがろく
るかるうとあいざて大極とりて紀て母〳〵氣居あり。
一つ大易二つ大初三つ大始四つ大素五つ大極六つ
繫辞　氣質　秘蔵　質法　答云云也
大極兩儀とりるあり兩儀は陰陽ゞるあり是別
天地開闢ゞるなりゞ是象とりるゞ所ゞこれ大法

大湯小法小湯とかりるゞ所ゞ象ところかるゞ所
乾兌離震巽坎艮坤の八卦とかりゞ八卦と二
にかけて十六卦とかりゞ六十四卦とかりゞ
で三十二卦なりゞ是と二つ二つ二つ二つ
とかゞりゞ〳〵に多ゞとかりけゞ金と金ゞ
ゞ極の一理なりゞおよそ〳〵一理動く時ハ氣と
名付ゞこうざ所時ハ理とかるれゞ理と氣と二つハ
ゞきゞ物なりたとへゞ砂磨とこうらへゞ砂磨
ゞせんとゞこへゞ里ゞき砂磨よゞ和なりゞ〳〵ゞ砂磨
をゞせんとゞゞ角ゞき砂磨よゞ和なりゞ是ゞ

せんじゝせじ氷砂糖よりあまりのあまりやうにこうく成。
白く成ぬとあまりやうくとも本来は唯一つ其さびと
や茅あり。とろうなるへは其せんしやうにより其かんしゝ
るあまりのとそうあまりひ法めべ法とも本有と茅の
神よりこうくあまり白くなり。氷と如つき性なくへ物と
せんじゝとも〻やうに如やうまるものあるまゝしかれく
大法一理のあまよ善も悪も法相法とくく
自然とそあまりて差別すれ合て混世
むとけてそなれとそその神々不思議不可得の相や。
法一理と佛説とそ真如とも寂光とも本覚とも

本来の面目とも本不性とも平等とも法身とも
一つの真如縁よ随てのゝ方法よ遍ぶかと法縁まの如と
の事ハと如あり。一の方法よ遍ぶかと法縁まの如と
けの茅法一よ帰すると不遍真如とハやなり。一度々法
相とあくハ一度ハ法相とひとそれで姫三姫一乃金躰。
縁よ云姫乃乃心行不滅るれで姫法とハ法縁よあり。
ふやくこのむりあくハ法かそん茅りやまくしかくく
法てさうせやうん抑五天竺大王浄飯王とやたて
まつる妃とそ摩那夫人とやなりぬたる子ハ出まれ
時東西七足踏で天上天下唯我獨尊とハ唱へある。

をかれ不思議をなりなり。十九の年にあ家をされ
三十の年に始めて花厳経とやあり。三七日に説法。
次に十二年説法とて。阿含経とやなり。次に十六年
説法とて方等経とやあり。次に十四年説法とて般若
経とやあり。次に説法とて法華経とやあり。次に八
年説法とて法花経とやあり。次に説普賢経
とやあり。次に一日一夜説法とて涅般経とやなり。
本来合て五十年に説法あり。釈尊は入滅の後。
迦葉阿難一千人の羅漢とあつめて五十年に説法を
書とるさせとき。次に一千年後天竺より。

西天竺よりひろまり。次に漢土へとおるに後漢の明
帝永平十年に月氏国の沙門摩騰迦竺乗二人。
経教と仏像とを持来り給ふ。此時大唐一天下に儒者
あるそひなり。次に西月十五日に傷教と仏教と
と左右につて少とをけ焼て。屋けきそうんをそ。西
法とさそめ。用ひべしとおもはれ少とをけやきこそ
よ儒教皆屋けて。仏教ばかりを焼ず故に明帝
をるくをりめ。我国へひろめるに大唐皆に列義
ひろまり。音年後にさそて。我朝よ海をるに仁王三十
代欽明天皇の代なり。日本へ小国なれど。異国

七子始発るこの中に成住壞空は劫ごとの
あり。それは天地生滅の過第一は成とは天地形
相出来るなり第二は住とは成りつゞきて住
ることなり第三は壞とは成りやぶるゝ不
とゝなり第四は空とは滅しれて寂寞相は成
をやぶりかゝれどゝくうりくりて空となり成と
なり。住となり。壞となりくるゝ始をなく終なり。
くりくとまるゝなり天地形相は形有を
あらず。ことゝもゝ有ことの二色にくるはちされど。
中道なるは相なり。あやまりてそふたづむりのあまで。

有ことに成ることなりのあれど。ことゝ成ることなり。
これ皆方便なり事なり有ことは邪見と破とく。
中道ことゝ実は本理を教へんがためなり 梅天地は
滅ハ始りとみて。始しれば滅ぜざるやとゝ
よ人寿八万歳と始とく。百歳より一つゞつ減まり。
十歳よりくはまり又百歳より一つゞつのびくゝ八十歳
ありてハのびやうに二十歳減みて成ぬ海壞
なり。成も住も壞も空も皆ことくハ。一新
とくゝ本来本有とゝ作ふるまひなり。梅天
みてハ元亨利貞とゝいひ人よみてハ仁禮義智と

いろいろ節より成り時は玄武状々くゝりて方角にくゝは成は東位は西壇は西宮は水より五行とる所時は成は木位は火壇は金宮は水より色よわくゝる時は成は青く位は赤く壇は白く宮は黑し味もひとる所時は成は甘し壇はみず宮はたゝくゆゝし又五義とる所時は成は肝の義位は心の義壇は肺の義宮は腎の義なり胸中央は脾乃蔵は胃の先ゝ腹なりとゝよたゝくゝで腹を作り腹は東西南北なる所時中座なり

東西より来るゝ面小ゝ東西南北よりもあゝまてゝたゝくゝ腹南北とゝけゝ時は必中座なり来ゝ色は黄也味甘也脈よりてきゝ時中央脾義

ときは心肝腎肺脾命門は六脈といふなり陰脈乃中まて命門の脈は五つ乃脈のみなもあゝ中まもあゝす左右もあゝ中みくゝたゝくもみなり有は

もあゝむゝ云ふもあゝずたゝくも有まてたゝくも云なりゝ云は二色はくゝおちされて中ばかりなり

玄紙とゝくゝ色とゝくゝ五常五行五蔵六脈とゝ也

皆これ一心のなすわざなり。一心は本来本有と即空即
假即中。胞三胞一の胞なり。色とかたちとこれなり。第
あつまりあつまりてかたちとなりて形色はそれぞれ
と殊なり。故に 問曰。我ほう色は天よりもらえたるか
地よりもらえたるか。父母和合する時にできやうとはいかに。
一心よりかたちあらはるるなり。父母和合
するときにできやうはいかに。父母和合して生
ずるときは老と併へてもきうずるなり。もしもさいを兼ねて
少へとありそれは 答曰。はは不審なり。ぐちにできや
うに付ては胎卵湿化の四つあり。第一は胎生とは

食胞とうまれてくるもの。第二は卵生とは鳥
人間牛馬犬猫の類なり。第三は湿化とは蚊
とかまきりなどの類なり。第四は化生とは
蛭の類なり。第三は湿生とは湿化なるが
ゆへにできやうは一切の虫類なり。第四は化生と
は湿化とも云なり。父母なくして虛空よりあるが
ゆへなり。大唐にては公防は仙人麒麟鳳凰は
皆化生なり。我朝にては天神は天狗
山幕河童は皆化生なり。されば父母なくして
生れ出るなり。されば一切の生物はすべてこれ

ばかりの梅形が色法ハ父母和合して生じ
もあるべし不和合ハ生じがたしとの
みて子ども不和合なるかりの父母和合さへ
せざる生じがたしかるがゆゑに
毎日一代夫婦ありてかを生ぜざるがあり又
夫婦ともありて五年十年婚ふかを生ずるがあ
もあれど一色ばかりなるべ定なり父
母和合なるけれども生ぜざるがあるとうりかげ
愚なるがなり。あるいハ家と作る
ゆゑ法の奥をあつめ地獄に入て猶重きをつ

ずは主人ありて識ざす時家の手本地
獄きくに指爪をたくさん立てなのごとく
母胎門と儲るなる地獄のごとく父母に嫌と儲
なる法の奥をあつめるがごとく父母和合と孤よ
りそなたの工をたのむがごとく又指爪とアハ盥
乃作業なり。善悪なる根をなすこがハその間
よりにくみあ形いくしこがハ富貴なるあり貧
また法の悪をあつめるがハあるひハ盲目な
るハ生なるハ白癩黒癩なるハ聾唖ものさかしらと
うけ。そもそも貧しもあるなり。乞丐父母のもざれわ

母乃胎内と僧和合と孫よりすべて皆我がこ
つかりなり少へよりきん人けこに無者あり無き者
乃子ふよりき者なり富貴成人のみ貧よりなり
もあり貧賤者子ども富貴よりなり長命
人の子に短命ともあり短命成人乃子
長命なるもこれ乃まへ皆自業自得果なり
なる則父母和合して年やとたりなり
愚なるなりみ色法を求めや男子女子
まとおそすゆへ母乃胎内にて苦しむ
りのあり母子ハ父よ先とゆへ子ハ

ゐるなり。猶よ男女ふ先に親先者と作て念仏
唱ざれば故生れて後よも男子とて必母ども
なり子かりのあり母子ハ父ども必いと後しがかりのや
先過去に先親あるもろ
者れどもとりへすもいろいろ世とこうやくつづき
ろうろうをよくしてけんあるべしとおもせり
まつぐ　同日一理一体乃若ふ仏と衆生
とかりこかやうにおもせられやみやうり仏ハ
仏衆生ハ衆生なりしたがつて仏と孫ひゃくと仏
なるべくしたとへば氷の作るに水あるを

柳八孫花いとれる井とぞ中ありさぶ
所生佛ふ如くのぞうこぶ
答曰。愚かりく有生仏生とやるとばかてん
あるへし一切の草木ハ仏生るれば若無色。
色心ひとりのみれば行ふ
和有生れ為神ようや来年有とず象ひ
境よ孫ひ孫よひくれつ
地獄の形とも餓鬼れ形とも畜生修羅人乃天
上れくうちともぞ所ありみハ好安孫貴蓮
佛ともなるもたとへば。さる和とず色よ深しは

十かきてきゃくぞ中ふく我すきぬと上に
きぬふりてハドを上にきみあるハ中と上ふき
十れ色をぞ時くにくや色ぞよきとを上にうと
れりへぞぞまくよれいしやうが上ふりを要を
上ふさんとおりへぞおしきいちやうが所ぞて上ふ
なりぞ皆我一念れるすふりがくのごく色ハ
心ふりくを遠を所和ありぞ色法ハさる和ときく
やごくたく我ふがきき引光よとれりめ
いて要と所あぞ言ずとぞ行ふず肝ある也。
くにやくふぞりみくハぞんまる海ど

十八

くるる。ろうく絡てこさうせつ。極秘ぶ一会ろう。
十界あるるりとやさで。鬱ようて居ア所ぶ
ようて。我ゲ氣よ入ざるるりと耳1。空間ぶ乃る間。
瞋意れりのと生ア地獄乃性ぶり。二ようの他の畑
とりゲり。我地とおりこみ。ようもかこうねこく
おりよ餓鬼れ性。二ようの魚肉とこみ。又ハ色こみ
ゲどといこすハ畜生れ性。ようハ鉦ぶ紀ゲ中を
こことこて。ゲりとぶり。我慢つきハ偏性れ性。
みつようとうやまひ老とあがめ。我身乃畜
ゲとゲろ。ゲりく行りよ人間乃性。六ようゲぶりき中

ままぷうこさせんゲどを学メ。けやそれよ。意ゲ
こうこハ天上れ性。ろうようハ。ゲ常とおりひ。前れ六乃
乃こゲとのこきこ。ゲ相よて。こうこんと思ようハ。ゲ中の性。
ハようハ。ゲ常と知り。こうこ一。我身れ。不浄ぶ因縁を
知こハ。縁覚乃性ぶ。ようハ他をあられこ。怒乃意
あるハ。ゲ薩性也。ようハ一会ぶ十界。こて。ゲ躰
万法ゲ差別ぶ。こ感ぜこ。ぶハ。佛性也ぶこのこく。
十界一会ようて。ゲ十界ようゲ。ゲ十界あれ。百界ゲ
ゲ。百界ようゲ。十如れ因果。この通。千如ようり。
ゲ如ようゲ。五濁世間。ゲ生世間。四ゲ世間。あれ。一会

三千ゝゝやあり。展てゆくれば。十方三千大千世界即
我ホゲ一念なり。速ひの業ひこれとちゝぐ。ながゆへ
よ。ゆ生ゝも。凡夫ゝもやすあり。実ゆ式ゆゝと
なるゆ。一心よ業法あまつぐ。地獄ふゝ地
獄よ。ゆて。ゆうゆあり。地獄ゝ。ゆゝこれが
ゆ。ゆゝ。ゆて。地獄のゝゝを。ゆりゝゝを。ゆゝ
おりて。ゆゝとゝゝ。ゆ乃九界ハ裏よゆゝ。下人ゝ
ゝ。鐵鞭ゝ意ゝゝよゝれゝ。ゆゝ大将ゝゆて。余乃
九界ハ裏ゆゝ。下人ゝゝ。畜生ゝ意強ゝ
畜生ゝ形ゝゆり。主人ゝゆて。余ハ下人のゝ

乃至偏羅。人間天上。聲聞。縁覚。菩薩。佛。仏ゝ
もつゝ方ゝなゝゝゝゝ。強ゝハ裏ゆゆ
ゝゝ。法中ゝ場あり。陽中ゆ法ゝゝ
火つゝゝ。ゆゝ水ハ裏ゝゝゝ。火表ゆゝ
水強ゝゆ。火ハ裏ゆゆゝ。水表ゆゝゝ
釜ゝゆゆ。水ゝゝ入て。火ゝゝ
ゝゝ。火ゝゝゝゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ
ゆゝ。火ゝゆゝゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ
火ゝゝ。ゆゝゝゝゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ
つゝゝゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ

合もとは何のつよき方ぞ。春とぬくぬくのつきは裏に熱也。
かつれどもこ一念はたらくつよき方ぞ。春とぬ若つれども若
つよいつけて所つねの所あつ也とかくれそれど。
問曰一心より佛も菩薩も滝もえらかくじゃんで絵像
木像とあらくゝ種巻とよみ入喝をせとは。
もくめられるや　答曰玉みんでくされど光あり。紅
は深くれ色とます。心は水晶は玉とうの内より出
ことくとも孫よあはされど火もくもいでと
日天子ふ合まで火あ月天子に合れど。のあらご
とく孫ふ所生は明れ孫よさそれ。一心より西

とあ一。我と我身とくゝめ。身とそこをひ人とそん
ざす。佛は法性孫よりぞ。心とあ一。一切所
生とをくひ法よりぞ。孫よ水火一神ぬとしても。
あくれ生まで火は神とそんざすあは神となく。
所くまいで。ふ火ぬ水ゆてはけーがき地也。
くのごとく孫ふ所生ぬ三界火宅とあ。三界火宅と
すくとは。約束願意乃初のとはぬえりどれつ仏
で佛の智水とけ今ひ生ふ願意れ初のと
けー火宅とあ一むんでみ。その西に火宅とあ一べ
きやとかくれそれど　問曰我ふやしも西とあ

て若しずとやまいわしず。又常とおんとし。嘉慶と
殺一。義として礼とみそりに世ぜ。何ようみくも
信とりしくれたこうはいたこうはいたこと上よりの礼修行うあん。
神託曰。心ゆしんぜよこれ道よりかるひるいのしぜん
も神やゆもらんと。ぞ時は第ず。信ともはこおこ
ようひゆしこと神のはは用ちやうるおりにおよそ仏
のはは用ちやうはもぞるひやべ。ぜよりの修行う
あしん恩ゆりとやきれられど　答曰。ちもなり。
たれのはんれと過らさとやはしず。仏教ちえ
とぞりしく神てきうせやしん清浄法行ちや絶の日。

我遣三聖化彼震旦と教法ぞ金言ましこと三聖
漢土よりの二人は老子。二人は孔子。一人は顔回。是三菩薩
なり。仏の勅命とは漢土よりは仏法は魁と
なり。又日本にては仏法を護神としめて人乃ちえとや
しこの仁義は道と教法なり。仏道儒道神道
共に同意也。法則を神道ともあれ儒道ともあ
仏教と和ひ給へぞんじ神道儒道の意にもち
ひ人とおもはれは中ばより儒者。仏教と思
ひて仏者ぞとてもとあやまりなりといへ。儒者
いよいよ仏者とてもとりなりたい我慢あき。

釈もしくは儒の道とぞいひける也。今時の儒者と
呼れて我慢山にして尺欲海より深し親に
不孝をして貧欲者に同して下にはんてん富貴欲人
よりはるかにひたまくみて学文をつき恥あれども書
は仏経五経は仏経と偽賃して直段をさだめ金銀
をとりて為とかなりて家業と義をたくして義食義
如をとるべき不孔不義也。仏は光王は家長と言ふ
きにたるべし上下とあるべしひとりすがら聖人仏
も同事なり。顔淵若ひ時ようんよりあるべ
きものとなくして時をまつて抜とてもたのめり。

仏則は道にあるとても今時の人々は明の酒に酔ふ
かたりて斗絲さへ酔れば酔狂人と呼
匠に教ぶるものひとりんをひとりんをひにはまくさつり
なるべしして愚癡を名聞欲男女仏邪とりつめ仏教
とぞ古草双紙をどりりもいのさまくなるべし梅と
桜南二世のたりとひおそるべしくは儒仏一ちゃ
てがりりかるもあり。番場りやさんは五戒と称
はは儒なれば五常とぞ呼ふ名は同意也。ゆへ十善戒ぞか
意とおさめ為と行ふ家とおさめ人と納国と

おさめ天下と治やうるとぞ教へ給ふなり。そこ法の羅漢
と菩薩とは十方の諸仏と教へ給ふ。その心は十方三千大千
世界は久遠のうこみのうるを未代のうを塵
空とうけ給とくに是法男よ微塵計もそこ法
るを自重自至れ分と教へ給ふなり。
やうれるを我ごとき愚癡凡夫をも
法ごとかぬやうにおもひ給へ。仏の法
彼教とうこひてそこ程よかるひうへ月氏漢土我朝
よりの教をとこぶ月氏漢土はさーあき。我朝はは
聖徳太子。伝教大師。弘法大師。慈恵上人。解脱

上人。此二人は春日へ参籠ありて的射
ありて合給ひて
ありしかは仏法よ不思議あるを。天下
かくれるけまこだにぶされ
同日に物狂ひ
智恵男女とあつあつろ
名聞とうこと
こて善食とこの善男女と
へ給ひ
乃教へ給ふや不審
我慢
上人

と引導よ形くぶりとなくねんとされそれで
善白山義光ありかの拓のうを実よ付ぷるに付
稱ゝりきハ佛法ゝりこと云さいを弱て実也ア
さんだ集經とやふ佛未来記を流ゝりを弱ゝり
佛入滅の後の百年とゝ解脱堅固とゝるゝ白山
ゝ善人悪人あるやうるを流ゝ金言れどく次の
百年ハ禅定堅固白山時節のゝ拓金言れごく
次の百年とゝ漸漸堅固とゝるゝ白山言ゝ拓
金言のごとく次の百年ハ多造堂寺堅固とゝ
ゝるゝ白山言ゝ親善ゝ楽王等南豆天台と名ゝて

陳隨二代よおゝゝ金言れとくゝり次の百年ハ
闘諍言詔白法隠没とゝるゝ合二子百年也
元と加ゝ百歳とハりゝ白山中ハ白法隠没と
ゝ未法今時のゝなり人ゝ意諂曲して顛倒を
ゝと流ゝ金言ゝもらぐゝ武家ハ在家と成
ゝ家ハ武家ハゝるゝ拓ゝ道と弱
ゝ鼻ハさ元とゝるゝ白山ゝ拓ゝ切らんと
仏合ざ拓ぷんとゝ町人女ゝ商賣ゝ
ハ妻子ゝ乃世捌ゝ女ゝ拓ゝ
女ハ男ゝ嫉ゝ男ハ女ゝ

愚者ハ道を問ずんとてみな家ハ在家とぞ
とかとして無つらい毎日一生家ハ名字とぞ
こそ道を学ぶ人もありやうに難倒も今さう
と備ゝ和てたゝしめて二ゝ青年いかあよ
流の世話ゝ金言ゝをちらばれバ備法ハつよく
ゝ雖ゝ同日御ゝたゝくゝ船よのる
よ船以西愛し船とのりそこゝ今船中ハ老
ゝとくゝ命とうふりのゝからくのこくく
今時乃おきゝ物主とゝ導よ教てハぶりとゝく
ゝいとやされゝ者曰愚ゝ乱ゝ

不浄水ともぞ此風呂に入ゝ法くゝ教べゝ法もゝ
ゝかくのごとく仏備教を船とし備のれゝ
と船以よ中ゝたまいゝ彼ゝに差
法べゝ備教ゝ教ゝ八西ゝ人ゝ
いゝべゝいゝの人ゝ赤人ゝ債法ゝ書付西
ゝ西ゝ今ゝ西ゝ書ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ今ゝ合ゝ命ゝ法ゝ宗ゝ
ゝゝゝ教ゝ会ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なぜそいづまも毎ぞうんこるあされ法ぞくさ方を出れ
ろくべきとやさされたれたぞ方れ上鶴のくあふ仏毎人様
の出無様ゆく様様ゆよ我ふ仏様ろ方れるへ
さいく新り後家を誠実仕はが釈る一代の出
仮法の中ゆ毎人成備れ経法死経ゆそな
由とき仏法死経と仏釈ろへとあられる
みろ方れ上鶴のあふ彼家ゆ我慢る慢先と
きて我家とそつ我ゆ家ゆ。備よ仏とやされ
釋尊一代の法教ゆ出ろそと備よなくゆ
教ゆろしくはと我家ゆ。歳備とやされは義

家ゆとゆきこはとゆけのゆ法
禁れ道ハ毎くれどれゆ。雲井乃月とえれ
とあり実ゆ武ゆことあ法ゆとおりはまた。
又かくれ上鶴のあふ一大ゆれ法世るれど我を
人ゆくくぞんく法部ゆみくはゆろ人の様様よ。
是と芝とゆ分むくはゆ様とするハ
そはゆよちくとやされはれ第るれ分べき
ゆありゆとくきく人のこハ無くれくゆ。
新ふへこは人乃やゆゆふへこを無く空
ゆくりのくりゆのゆそくもんるゆもゆれる。先

我慢と云めい私欲とのそなきて国を耳も天下れ
耳。天下れ国ふるしてかんろうさひつ。はゝ稀で実
乃理に得さは物ありとかゝ〳〵也。それで一度
同者に。極〳〵金言とぷけり毎りひりの分義
よ然てぷ自べさるものありぷとぞやされそり
ものゝ〳〵ゝて〳〵人の上臈れは奇に
丸れ〳〵たゞ丸うまや人心
かゝ〳〵あるすへ物乃かゝはよ
みひとりれの毎ふへ
丸れ〳〵世ふれかゝれてそ

よろれ乃物へゝはなもそり　その毎
みあるかゝれ上臈の毎ふへ
丸くゝも一うどあれや人心
あまり丸さへゝろひやきれよ　とおれ丸
又かゝ〳〵乃上臈の毎ふへ。徳よく人として心一うと
きゞよくゝうんとぢひ世話よりへ心よくてて
ゝ〳〵ものを捨ゝ人〳〵ゝゝ捨ゝへ。一度大美ろ
なもゝろ。徳ゝ不ゝよ又かゝ〳〵れ上臈ぷゝ〳〵ゝゝか
まての毎ふへ。我未れ〳〵ゝゝ家乃れ教とぷゝく
弱て。安ぷせゝゝ。諸備は慈悲深とゝゝ人ゝも中

よも阿弥陀如来とゝ[illegible]なるゝ法佛よりそれ慈悲深
おゝします。因位の時ハ法蔵比丘とゝ[illegible]り。山村ゝ
誓願をあらはしゝ二十八乃至廿四願を立て我を救ふ[illegible]
願ハ逆十悪の者ハ[illegible]。我國へむかひ来べし。あるひ
ハ逆十悪の者ハ[illegible]と雖[illegible]ふ[illegible]
ハ我正覚とゝ[illegible]と雖[illegible]ふ[illegible]
西方ハ極楽世界。千劫也。[illegible]一切衆生[illegible]
往生[illegible]
観経曰。五逆十悪具諸不善又無量壽経之
十八之願曰設我得佛十方衆生至心信樂欲生我國
乃至十念若不生者不取正覚同三十五之願の八変成
男子とも[illegible]於彼の往生[illegible]
往生願[illegible]
[illegible]
[illegible]

生忍五百侍女殺阿耨多羅三藐三菩提心少狠の
ゆえをもつてして三部経よりは法華経と成仏とを
わかせられしや愚かの如しく　答曰韋提希の
覚は彼経尚分れず見たとえば一国は全く国中
とをり天下を見るが如く一人は常く一天下を遍をり
給ふがごとくの韋提希は覚は観経尚分
乃覚まして仏智を覚給ふとはあらず
第実は覚うるゆえ韋提希は仏のとはいふ如来
如来は仏のとはいふ仏べしと十號記別をえし
給ふと三部経之中に韋提希成仏之十號

記別全これなり。記別うけまこと実は覚よりあらざる
ゆえ。疑を。皆悉く法華よりありてこそ成仏と得
給へり。法華よりありて成仏をうる二乗は三量
如しとは。略をもつて大海の一滴分。是とやさば。
舎利弗　光明如来　迦葉光明如来　須菩提　名相
如来　迦旃延　楞伽阿羅漢　提金光如来　目連　多摩羅跋
栴檀香仏　富樓那　法明如来　阿難　山海恵自在
通王如来　羅睺羅　羅蹈七宝花如来　憍陳如等五百七
百人者　普明如来　学無覚二千人者　宝相如来　憍曇
弥等之六千比丘尼者　一切衆生喜見如来　耶輸陀

羅比丘尼者具足千万光相如来提婆達多者天王
如来又龍宮界之婆竭羅龍王はむすめ年八歳
ましてはじめてとくぶつ即座に南方無垢世界の
成道とときげうり。法文明なり。成佛ハ法花経
ましてハ全ときの事。華提希はは大悟者観経
者をみて実の覚よあらざるなり。類をもまのし
はとおかせられで　問曰。尤釋尊はあはれ河ら
よおはしまくハ菩人女人成ともそ皆上根上知成
べ。来ぬ今時の下根下智成若はあるなり。
法花経ハかるひがごとなり。理深解微なれば

今時乃愚人のごとくハ三部経おも成ハ。ぞ法文
言量義経下曰当来之世経道滅盡我以慈悲長
憐特留此経止住百歳文のごとくなれば未法なり。
法経ハこれとうまるの三部経法華会佛のこおも成
る。法文明也かれの経文とよくくぱ法あれし
とこそなれば　答曰彼経文と西法ハ経文
経ましぱ時言を是ハこれ西法一千年を像法乃
始れ百歳也ぞ心同本異訳之理よ見ん。乃至
雙樹経之平等覚経之下曰我般涅槃去後經道留
同本異訳止千歳千歳後滅道斯絶在心耳願皆可得度

小阿弥陀經 同本異訳 之大阿弥陀經之下曰我般涅槃去後經
道留止百歳百歳中可竟乃伏止断絶在心耳彼
皆可得度此文のごとくば量寿經之經道斷
絶此文の像法乃始の百歳なり。末法相続之
經者法花經なべし。況滅後末世法欲滅時受持讀誦斯經典已上經文
於後末世法欲滅時也云云 經教大師教示曰正像稍過已末法太有近
此文此ひと傳教大師教示曰正像稍過已末法太有近
法花一乗機今正是其時何以得智安樂行品
曰末世法滅時也云云 經教大師
乃經の法花經なべ。末法の意
乃女人の法花經とたりぬ。歎ずる此心もまた一切
諸佛此法花經なべ。末法の意
之下より此經難持若暫持者我即歓喜
諸佛亦然如是之人諸佛所歎是則勇猛是則
精進是名持戒行頭陀者則為疾得無上佛道能
於来世讀持此經是真佛子 同七巻藥王品之下
日此經者則為閻浮提人病之良藥也若人有病得
聞是經病即消滅不老不死已上經文 如来此金言の
ごとくば我ふごとくば愚智なる女人なりとも
法花經とうけたりぬ。題目とうるばかりにて成佛

八類ありとぞいはれける　問曰彌陀とは
又彌陀之名号と唱へ申しかたを極楽世界より往生往
生の類多くあり　答曰無量寿經の河彌陀經より明
六方恒河之諸佛　經明よりは往生類
多くあり　問曰何ゆえに諸佛
各曰無量寿
經と云ふ　答曰諸佛本願とて
諸佛ごとに二つあり　一つは八種
願　二つは別願　別願者藥師十二大願　釈迦五百大願　彌陀
十八願也　四弘誓願者衆生無邊誓願度煩悩
無盡誓願　法門無盡誓願　智無上菩提誓願

誓願也　四弘の中に始は三つは覚他第四は自覚也
四種願　第四は菩提之願と成
ぜんれば前の三願成ぜざるなり　第四は第願と
成ずる日は前の三願成ぜざる時は諸佛
の意楽に随て成ぜざる時は諸佛
菩提の願と云ふ　法門覚也　菩提と云
前の三願は菩提願と成ずるなり　釈言に本の
根なる時は衆生と成ずと云ふ
衆生願ずと成ずるなり　根なきは
どんぞ度ぜざるなり　菩提願
起なり　菩提乃

中教とたつとまうす。則教義ハ仏ハ公ニ向て
説給とべし。教義ハ法華ハ方便と実と二ツ
ニ分て。方便ハ権実之二ツ有。権ハ方便と法華ハ
法華ハ阿弥陀如来ハ。権ハ方便と法華ハ
実之中ニ入ル。法華ハ阿弥陀如来ハ。横ニ
なり。法華ハ阿弥陀ハ竪ニ成。
ハ幼雅之竹馬草鶏ハ児の
ゆへ〳〵ずたとへ。幼雅ハ
嗜て嗜ハ乃ち。父母ハ法華とのたまふ。
児ハ妄情ハ仏ハ法華ハ
ハ父母の実意
よやとられて。能と勧ハ勧ハ。児ハ意と組
たゆまり法華ハ法華ハ
ハ法華ハ摂取之機ハ

と。施ハ能と法華ハ。弥陀ハ実意ハ幼
とられて。ハ教と法華ハ。摂取之益
と。法華ハ。故三部経ハ随他之初ハ
ハ法華ハ。法華ハ随自意之後ハ
と捨て。諸仏ハ中ハ。我所行仏道と。
釈迦弥陀ハ一切の諸仏ハ真実ハ。
ハ法華ハ法蓮花経也。ハ法華ハ一切衆生ハ
と。教ハ中ハ教ハ。教ハ中ハ余年
乃間ハ。ハ法華ハ。直道と。
今ハ。ハ実直道之法華経と。

上

たゝうこと叶はざりけり。法華一の巻方便品に曰、如我
昔所願今者已滿足化一切衆生皆令入佛道
金言ありしかるに千余年に及ぶまで方便の説すて。真実乃至
方便の説すて。真実乃至随他意
説ずして。唯説一佛乘ばかりなり。阿弥陀佛に
又法華経に阿弥陀佛に
佛の名号を
唯説一佛乘ばかりなり。
佛の名号を
唯説一佛乘ばかりなり。
佛の名号を
唯説一佛乘ばかりなり。

生死涅槃九界佛界皆悉別也仮令生死
うそ煩悩即菩提生死即涅槃九界即佛界
也と仮令ふと題目開會しかりの次は種類開會
也とは方便品なり五種南無佛皆已成佛道と
ひとり一稱南無佛
法花の開會よりひろく佛道と轉ぜり加之也
は皆已成佛道と仮令なり唯知識念佛之
作行の正法花之開會と為て他門佛性と如来
秘密中之秘密不前四味法華經は獨一
法界妙と為り仮令ば河の水大海に流

入て一味と如来の名字を失ごとし色を性類に開會
とは即ち加様なるべし三乗の弥陀
阿弥陀は付て三乗の弥陀あり一つは三部經の弥陀
色八十劫正覚之弥陀也二つは法花三卷化城喩品
弥陀色八三千塵点劫已前大通佛之中にあて十
六王子の中の第九番めなり此時は法花經と安
楽ひて色を解阿弥陀此事となる也仮令ば
弥陀は常住不滅なり妙法蓮華經と説給ひ此
三之卷化城喩品は明かなり法華経ばかりにあらず
不審は仮令ば法花三之卷を説給へ

三、なを七之巻菜王丸れ弥陀のるゆ乞な阿弥陀ゆ茶
乃本覚本國をおらりふなり。故よ經目即往
安樂世界阿弥陀佛説也三部經ゆ十方億土西方
十劫正覚おこさしゆ天ゆ花名別やたゆ。逢中
乃九界と。悟中の九界とれごとしこさ名同ゆ
なりとゆどもこさ心ゆ不同なり。三部經そな
始覚新佛有始有量有異之法佛ゆて方便の
弥陀也。故我名を唱ゆと教行ふなり。梅法花經
ゆくゆ云始云終。本来本有云作之弥陀也。故妙法
と唱ゆと教行ゆ也。法花之序分云量義經目

文辞雖一而義各異是也。又天台沖釈云。因是經典
如説修行等者不須更指觀經弥陀經等意已上上
經釈之意ゆ〜がそんゆて阿弥陀と名よ逢
三部經之弥陀也。法花之弥陀也同ゆ名ゆと
おりゆすなそ〜愚ゆ思ゆ疑ゆ
茶ゆ〜こきゆゆれど。茶ゆ經ゆて学世ゆうん。
抑阿弥陀ゆ茶之本。國をたづ。ゆれな云如富
光之都也。法佛。彼國よりゆ実れ道よ茶ゆて
西覚を教行ふ。我ゆ前生を投都ゆてな法佛乃
乃そそでそるれゆ浮ゆうゆ。忽然と云的の御

まさしく三世諸仏と、おかるることを信らしめ
圓と云へり。ゆゑに三世ずれば、秋月の光をあらはし、婆娑示
現を行ひて、中道へ帰るさを、垂迹とぞ云へり。
めせとも、地獄畜生餓鬼男子男女に行て、殺風俗
少習ひ、畜生男女に行て、殺風俗
と習ひ、人男女に生まれども、仏の教をけ
むじ、天上に阿修羅果を得るといへども、楽よ
たらふまじきなり。果報つきて、下男下
女。三男二十五有を流猫仏の車に乗せ
がごとく、三界の男と四生の男と四生を

めより入り、耳より入り、口より入り、身より入れて、
身より入れて、八識に納るゆゑ、眼耳鼻舌
口も意も皆悪業にて、垂迹を学ぶ。秋月
光と能たらんとして、方便とり、先ず人中
天上に善果を得る道と教へ、五戒十善戒
とたりつるより、次に同居の浄土へ往生すべき道
を教へ、今の三部経、弥陀教、名号仏のさま
次に三昧、三昧懺法、阿弥陀仏、中
来不生、今亦不滅、
ちつかと切て、三界と、折宣諦宣説得り、此ハ光

方便土へうつし給ふ。浄土の実報土へ帰る道と教へ
給ふ。光明遍照十方世界念仏衆生攝取不捨の
土不二の弥陀光土へ帰る道と教へ給ふ。是い法華の法
華経の本迹二門の弥陀如来之本国也。弥陀光土と極
楽と云も安楽世界と云也。法華国土と言も清浄道場
心行所摂之国土なれば。妙法蓮花蔵世界と云也。故
法華国土の方を指して法華経と云也。故
法華と指して統のごとく修行いたす女人の阿弥陀
仏之本国弥陀如来の浄土也。法華経より阿弥陀
たのしとうべし。統行也。法華経より阿弥陀如来

の浄土へ十万億土。西方をさしてゆく統行也。即
往安楽世界。所弥陀仏と統行也。往云往生
不往生云生。生死ハ不生より。迷の一念より。悟の
念に至ると往生云。往生ハ即
智生也。不生と生ハ迷より悟に至て仏
身中の八葉の肉ぶん也。蓮華云。一切衆生の
婆那。衆生ハ如来法花と修行行者の
般若ハ即往安楽世界。他所ハ
本国之安楽世界。統行也。阿弥陀如来
法花経を持あれ。嗚呼悲哉。女人ハ

阿弥陀ともいはんよりは法華経をも三部経をも
同じなりとおしへしのちは愚痴の
あまねく懐一切の衆生成仏の本道なり法華経
をさしおきて還誹謗をなすべきにあらず法華経を嫌
弥人くは何弥陀の本願を中国へうをを引てきたれる
ものなるべしや弥陀一佛ふたつなし一切諸佛の
本願をうばひとりてさとりをひらくべしや
法華経二巻譬喩品云若人不信毀謗此経則断一
切世間佛種乃至其人命終入阿鼻獄云云金言明白
此経は余経よりは意とうるわしき法華経を余経を
嫌とやをもはれしかは夫子を民をもつて
ちかづけをれいくまつへくしかやとやをもはれけまし
同曰愚なりしかは知なくしかや弥陀と者梵語寿
命量寿とやをもはり無と者空諦量と者假諦
寿と者中道をもはれし何弥陀の三字は空假中の
三諦也又妙法と者空假中の三諦よりあるべしや
法花経は妙法と説三部経は何弥陀と説
たまへる仏の異なるあるべしん　古来よりも。他の人
師よりもかくのごとく雖彼のあるいは伝教大師をも
かくのごとく妙法蓮華経を佛と云異名同体也

答曰。弥陀妙法一躰なり。
瑠親瑠開之前ふあるすや。愚かなりし。番殺して
ぬかあやしんさん。瑠親乃ぬかあるまゝ。一塵一瓦各一佛性うて
犬猫鼠蠍蟻蚊蠓のたぐひ皆悉三諦三千代秤
ぬくさかりのるけ生ぐ厭へさ穢土をるの。那べつさ
浄土を。捨べき為をも無べさ苦をも無べ情へさ。
生るけ生ぐ。教べさ佛をも無べより我色心三諦
三千之佛秤まして。釈迦弥陀某師。等ふ他代異
なあしし人所弥陀之三字と。三諦とや八瑠親瑠開
のあり。天台大師代は釈よ云而二忘不二者。悪病

道。不二忘而二悪病道也とさくあ弥陀西とい
而二不二とぬむして。佛と法と一体ありとやさ
佛と所生と。他乃異うあるん。則ぬる敬ふ人
さ佛。ぬ犬猫鼠と。他乃佛と并てを若くさ法
や未寅くぬ道乃法ハそるとぬむ。教ぬ二代の
教ふ。佛法僧代。三宝ぬあ。三宝と称らたが
道邪見の教ぬべし。三宝者。ぬる佛・釈迦弥陀
某師等。ぬる一切乃法佛也。ぬる一切の法経
三ぬ教ぬ入滅の後。月氏漢土我朝。代代祖師也
極三宝之中まな。何弥陀と。佛名まくあるぬ。

妙法者中来有之法ハ有ゝ法ハ有ゝ法ハ
阿弥陀と妙法と一体ハ如と云へる人ハ而二と不二
と事と理とを能知る人なり理観理開之
教ハ迷ふ人ハ有ゝ法ハ有ゝ法ハ佛世尊ハ有ゝ法ハ
利益を施ふ人ハ有ゝ法ハ有ゝ法ハ醫師の薬と用ひ有ゝ法ハ
病を治するがごとく佛ハ法をとりて衆生を救ふ
と云ふ前生ハ法と同て法よりさきに一分一
分ハ法ハ或ハ人中天上ハ善果を得或ハ
分段土へうつり或ハ実報土へ至或ハ寂土不二寂光
本覚之悟を得ることあり皆是同法之功徳

弥陀乃名号と同名号を唱ふ往生を願ふ者
人ハ択る一代の経ハ八万四千ハ何弥陀之三字妙法
と異名同体也と云て雑波ハ薄伽梵の海
をきわめ一のあ所を弟子ハ合掌ハ拝く一ハ
実ハ多くれとも此ハ是世俗ハ相ハ定親と中ハ
加報のすみかなり愚ろかなり　たゞ不ハ葬ハ素
のすがたハ新よみがへれとも なほハ人と忘て海ハ弥
陀経ハ之巻普門品と乃ち観世音之ハ名を唱
ハ者ハ法難をのがれとも段観世音ハ弥陀之
ハ身ハ也身ハ弥陀と唱ハ功徳かくのごと

まして法師匠之ゆゑ。この経法妙華之法名を唱へ
ゆつるだにつくれば功徳かぎりなし。何そ一経よ。経法
乃名号に。功徳すくなしとおぼせられんや　答曰。仏の
しるし観世音ハ。この経法妙華之法華経を
西方十万億土よりり。霊山会場へ。来り給ひて。
釈尊之説法を覚て。妙法を覚妙法と
頌よりつぐき。妙法蓮華経と。
二十三身よ遍。衆生之苦をすくひ給ふ。
文殊菩薩八之巻普門品云妙法蓮華経観世音
菩薩普門品云同会観音妙智力能救世間苦

ひくこと。乃ちこれ。経文明らかなれば。観世音。妙法蓮華経
生れ給をたすけ給ふなり。頌云。南無妙法蓮華経と明
られたるなり。南無ハ帰命なり。妙法蓮華経ハ明
さる。法華経八之巻観音品ハ。天台大師釈。観音玄
義同両観之書と。法華経之
名号ふかく。尊とひくこと。
若とすくひ給ふなり。
三部経ハ。一切乃法華経ハ。
まつぐ。観音玄義ハ。
十万億土之彼岸ハ。

は弟子。法花を行者也。月氏漢土我朝三國よりの教
たゝえまうるは。教主釈尊は弟子法花乃経者
かゝるのゆゑとゝのゝはゞそんをべーす。又経世者は名を
唱。維摩乃維とのゝれしとやうなる。槃特が
愚智を文殊之智恵。提婆が悪を経者之慈悲
とやうなる。善の薩之所生利益よりて。量
乃志なり。提婆達多は五天竺第一乃悪人と
教主より歎と作りさるゞ。霊山の門を踏
玄同地獄乃りのとれりゝ。法花を行人へ
よ。悪人の意とひるがへさせ者心とす。法花経よ

入り。皆悪成仏せさせ給ふ。花は大悪人が教主之
教法とゝゝくれ。ゆゑ。道引給ふゆゑ。槃特は
五天竺一之愚人と。加へ法花より来。善明世界と
仏より。加て。花と行人へ。ゆんせ法花経よ入。皆悪
成仏せさせ給ふ。花は愚智ふゝく。法花よ入。皆悪
と道引給ふゆゑ。文殊は智恵とりゝく道引
相観者は三十三身よりて。我名を唱へ
ゝゝんを。観世は維摩とのゝれ。我名をかるゝんとゝ
行ふは法花よ入。ゝゝき者を道引て。法花よ入。如
我等を異之ゝ。ゝゝれを開せんなゝめゆゑの観世者

はちんうのうたる法花とたりたるへうし法花と
さし並ぶ世尊と会しし給へしのとして利生をなべく
いや。未来永劫に又法花の経周弘陀如来名号を
備うる義分と為辨ぜし。玄量知べし。今略して
元といへば玄義之一より云。此妙法蓮華経者本地甚
深之奥蔵三世如来之所證得也云法花経周是
仏世尊の大悟大覚乃本懐也。仏仏祖元と究て
十號と奥是し。菩薩元と悟元と法伝よのがる
もてよ。三世の仏仏祖得之法体也と宣べり。
弘陀如来元。中に仰ます。妙法の得道疑ふ

今べし。妙法者。諸法実相性也。実相者覚不変
之妙法也。諸法者迷不未不去。有佛元佛性相
常一法也。妙也。河弥陀仏三字八十劫正覚の妙来
の名号なれ。なとき。ふふ。ふふ。ふふ。
所證乃法体。ふとも。始覚新仏の名号也。
有始有量者無今有之假名也。法花乃妙と。摂
量ふたべ。妙法の三諦八十界三千仏萬法都
融妙不二之體性體量體德之妙。諸法惣分本
躰之三諦也。河弥陀乃三字と三諦ふ配せ。名体
者行の二佛仏功徳。萬法仏中ふ。但一法之用之三諦也。

様々の方法想弥陀の三諦円融の妙法より萬か一をたく
らへてこういふ況この弥陀の三字と理開ちく空假
中に財尚て歴別の相ふあるべしや妙法は法佛
報世乃至懐也いづれも弥陀の名号ばかり
でこたへに出世ちかふ佛ありやこれ弥陀の本
乃安樂世界の教主ちかふ妙法の化道よりの
自然乃名号とぞくづきたためまいあるべ。當知ぞ
弥陀の名号は法佛報化三身の名号ばかり
実相乃妙法ふみぐんや法界唯心三諦
本覚無作の三德三身よりちく全心外の法は

而心円理自性の體性天真獨朗の本法三法
妙の中心法妙也弥陀乃名号は西方十万億
土安養世界の教主の教主は別名也自己本覚の三身
無作の妙法と開き他佛名号用ひ給ふ甚
不可也かの名のもと絶は合点あれかし

論語曰。過則勿憚改

吉田氏蔵